

式 辞

令和四年度畿央大学入学式において、ただいま畿央大学への入学を許可された皆さん、誠におめでとうございます。

さらに、この日を迎えるにあたり、これまで長きにわたり入学生の皆さんを見守り、励まし支援されてこられたご家族および関係者の皆様方にもお慶びとお祝いを申し上げます。

ここに臨席しております学部長、学科長、事務局長をはじめ教職員一同とともに、入学式を挙行し、皆さんの入学をお祝いできることは、畿央大学として大きな喜びとするところでもあります。

畿央大学は、ここに学ぶ学生の一人ひとりが将来のありたい姿、夢の実現に向けて、大きく成長できる、素晴らしい教育の場です。この教育の場は、畿央大学の構成員である、学生、教職員、そして既に社会で活躍されている卒業生が一体となって作り上げてきたものです。

今日からは新入生である皆さんもその中に加わり、お一人おひとりが人生の夢の実現に向かって、自ら道筋をつける努力をされ、人格的に大きく成長されることを期待しています。

畿央大学では、学園の創設者冬木智子が掲げた建学の精神を教育理念としています。

建学の精神の一番目は、「徳をのばす」ということです。徳とは、人の寂しさ、悲しさを察する心をもって、優しさを世界中に広めていこうとする心のありようです。

二番目は、「知をみがく」ということです。これは、人類の進歩向上は、自己の才能を最大限練磨することであり、私達はあくことなく頭脳を磨き、励まし合い、研究的な態度を養い、知的探究を行うという、「学びの姿勢」を示す言葉です。

三番目は、「美をつくる」ということです。美とは、何かを作ろうとする活動のゴールに対する最高の評価を示す言葉であり、憧れの対象となるものです。芸術作品はもとより、工業製品から、自然科学の法則、数学の定理、さらに魅力ある心や生きる姿など、具象的なものから抽象的なものまで、すべてが美の対象であり、人に感動を与えるその在り方です。

畿央大学はこの建学の精神を指針として、健康と教育の分野において高度な専門的知識と技術を有し、豊かな教養を備え、日本および国際社会に貢献できる人材の育成を教育の目的としています。

現在、日本はもとより世界各国の社会は、情報化社会からつぎの新しい社会への大きな転換期にあります。新しい社会は、ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、バイオテクノロジー、仮想現実など多岐にわたる分野の新しい技術革新が、あらゆる産業や社会生活に取り入れられた社会です。

数年ほど前から人工知能技術の進歩による社会の変化が顕著になっていましたが、一昨年から新型コロナウイルス感染症対策の必要性から技術革新がさらに加速され、日常生活もグローバルな規模で大きく変化しました。皆さんも、新しい社会の入り口に立っていることを実感されていることと思います。

このように世界規模で社会が大きく変わりつつあるときに、皆さんは大学での学びを始めようとしています。

大学では、専門分野の知識と教養を学びますが、それらをどのように学ぶのでしょうか。以下では、学びに対する姿勢と、知識の捉え方、そして教養を備えることについて、皆さんに期待することを述べます。

一つ目は、学びに対する姿勢です。「なぜか」と問う姿勢を大切に持ち続けてください。

学んだ知識で問題を解決できるところに留まらず、なぜ解決できるのかという疑問を持ち、その理由・からくりが「分かること」を体験してください。「できる」というだけでなく、「分かる」という段階に到達するために、「なぜか」という問いを何事に対しても持ち、常に考え究める「探究する」姿勢を持ち続けてください。

それには、「なぜか」と問う知的好奇心を大切にすることで十分です。分かることの楽しさを経験でき、同時に深く理解することができます。

分かることを重視する学ぶ姿勢は、学内での学習や研究の時だけでなく、学外実習、地域連携の取組み、国際交流など大学生活のすべての局面において持ち続けてください。

二つ目の知識の捉え方は、専門知識をどのように学ぶかということの説明です。

皆さんが学ぶ専門知識は、人類が獲得し蓄積しさらに創り続けている膨大な知識の中の、それぞれの分野の知識です。

専門分野の知識は、個々の要素知識をまず理解することが必要です。さらに、個々の要素が互いにどのように関係しているのかを知ることが必要です。それらの関係を頭の中で思い描き図に書いてみてください。その体系化したものをモデルと呼ぶことにします。

モデルを頭の中に思い浮かべ、体系的に捉えられるようになると、関連のある他の専門分野の知識との関係が見えてきます。個別分野と関連分野の知識を、より高い視点で見ること、俯瞰すること、も意識してください。

専門知識を、体系的に表現し、対象をモデル化し、俯瞰する視点などから捉える努力をしてください。

三つめは、豊かな教養はどのようにすれば、大学で学べるかということの説明です。法律・経済・歴史や言語・文化に関する知識としての教養は教養科目で学べます。一方、デジタル化が進む新しい社会で求められる教養の基礎となる情報リテラシー能力は、「数理・データサイエンス・AI(人工知能)」の教育を通して身につけることができます。「読み・書き・そろばん」のデジタル社会版の能力です。

「数理・データサイエンス・AI(人工知能)」教育で得た能力は、社会の中で直面する様々な問題・課題に対して、他の人を尊重し協力して解決策に導ける力になり、それにとどまらず専門分野の学びを深める力にもなります。

学部に入學された皆さんは、文部科学省により「数理・データサイエンス・AI」教育プログラムとして認定されたりテラシーレベルの科目を必修の教養科目で学び、専門科目では応用基礎レベルの内容を学ぶことになります。

さらに、この教育と連携して、「次世代型教養プログラム」も学ぶことができます。次世代型教養プログラムは、論理的思考力、コミュニケーション力、読解力、表現技術力を鍛える講座もあれば、好奇心を満たす講座もあります。

大学時代に、新しい教養とそれに裏付けされた能力を身につけること、培うことは容易ではありません。畿央大学における先生方との交わり、先輩、同級生や後輩との切磋琢磨、さらに学外の人たちとの協力連携など、多様な教育と研究環境の中で、入學された皆さんが、未来社会のニーズに応え続けられる能力を身につけ、健康と教育の分野において高度な専門的知識と技術を有し、豊かな教養を備えた専門職業人に大きく成長されることを期待いたします。

本日は誠におめでとうございます。以上をもって、新入生の皆さんへのお祝いの言葉といたします。

令和四年四月四日

畿央大学 学長 冬木正彦